

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト 実施報告書

報告日	平成30年2月16日(金)
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校
PTA会長名	小平 陽子

実施概要	実施活動名	ふとくまつり
	実施日時	平成29年9月16日(土)
	実施場所	宮城教育大学附属特別支援学校体育館
	実施目的	特別支援学校に通う児童生徒への理解を深めてもらうため地域への啓発・連携・交流を目的に開催
	実施内容	生徒が授業で作成した作品を自ら販売。喫茶コーナーでは企画から運営・注文・会計を担当した。出店各コーナーでの買い物やゲームへの参加を通じて来場の方々や学生ボランティアと交流するもの。創立50周年を記念し企画したPTA主催コーナーでは保護者による制作作品を販売。作品を通じて『互いを受容し認め合うことの大切さを感じていただきたい』とのメッセージが込められた。
実施方法	ポスターの作成、学校PR動画を見ることのできるQRコードを入れたチラシを作成し、仙台圏全ての小中学校、附属校園、市内の主要施設や地下鉄駅などに配布した。また、大学内生協の電光掲示板による周知や、大学Facebookに紹介記事の掲載を行った。さらに、地域密着のテレビ番組に出演し生コマースでイベントのPRを行った。ふとくまつりの全体準備は保護者が担い、当日はボランティアの協力を得た。	
参加人数	450人	

報告事項	内容	<p>○事業委員会の保護者20名を中心に、提供品コーナー・子どもコーナー・お気持ちコーナーの企画運営を行った。昨年好評を得たポップコーン・綿あめコーナーは今年も本校の水谷校長と研究室の学生が運営した。また、保護者有志によるクワガタムシの販売も行った。</p> <p>○高等部の総合サービス班の生徒による喫茶「スマイルカフェ」の企画運営を行った。昨年行った保護者担当販売をなくし、ペットボトル飲料の販売も全て生徒が行った。</p> <p>○事業所の出店は前年度卒業生の就労先を主に選定した。体育館内に7か所、移動販売車(カレー、アイス)2台、合計7店の舗出店があった。</p> <p>○中学部、高等部の生徒が作業学習で製作した製品を販売するコーナーを設置した。</p> <p>○各学部の学習の様子をパネルにまとめ紹介した。</p> <p>○創立50周年記念の新企画・PTA本部主催の臨床美術プログラムによる保護者制作『太陽のバッグ』の販売を行った。多様性を認め合う啓蒙のメッセージパネルや、電子黒板による制作の様子のスライドショー、夏休みの親子企画で実施した同プログラムの生徒作成のバックの展示を合わせて行った。</p> <p>○ボランティアは、大学生16人、附属中学校生徒12名の参加があった。</p>
	結果	<p>当日の来校者数は287人。チラシに掲載したQRコードから見ることで見ることのできるPR動画は、今年の創立50周年用に内容を作り直した。昨年に引き続き、ポスター掲示やチラシの配布を地下鉄や主要施設に掲示した。また、テレビ番組での生コマースによるPRにより番組を見た方にも50周年記念事業が広く周知され、地域の方々、在校生の家族、卒業生とその家族、附属校園のPTAの方々、支援機関や事業所の方々が多数来場し、前年に引続いての大盛況となった。参加事業所は弁当・パン・菓子・焼きそば・たこ焼きなおどのほか、移動販売車によるカレー、アイスは大変好評を得た。生徒の製作品も好評でほとんどが完売となった。『太陽のバッグ』には「ここに描かれた太陽はどれひとつとして同じものがないように、私たち一人一人それぞれがかけがえのない太陽であり唯一の存在。その違い・多様性を皆で受容しあえる大切さを、作品を通じて皆様に感じていただきたい」というメッセージを込めた。60枚完売し、この新企画に制作に携わった保護者も達成感をもった。昨年に引き続き好評の、校長による10種のフレーバーのポップコーンは、その味を視覚的にも認識できるよう味を表すイラストを表示するなど工夫した。宮教大生が作る綿あめは色とりどりで参加者のお祭りの雰囲気大いに盛り上げるものであった。</p>
	所感	<p>多くの来場者でにぎわい、生徒たちがその雰囲気の中で自分たちの製品を販売することができた。外部のお客様とふれあい交流できる機会ともなり、子どもたちには良い経験で、その姿に成長を感じるものだった。また販売だけではなく、参加者としてもまつりを大いに楽しんだ。今年度初の試みとなった地元テレビ番組のイベントPRコーナーでの宣伝の反響は大きく、テレビを観て訪れたという方もおり、これも初の取組となった『太陽のバッグ』60枚は完売となった。来場者はほかに支援機関を利用している他校の児童生徒や職員、保護者などが訪れてくれた。参加した保護者の多くが来場者との交流に達成感をもった。</p>

添付書類

写真

平成29年度宮城教育大学附属特別支援学校『ふとくまつり』太陽のバック



平成29年度宮城教育大学附属特別支援学校『ふとくまつり』



カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成30年2月16日(金)
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校
学年	高等部2年, 3年

『ふとくまつりの思い出』 高等部2年女子生徒

私は、総合サービス業班なので、ふとくまつりでは喫茶のコーナーでおしごとをしました。

ふとくまつりのために接客の練習をたくさんしてきましたが、とうじつはたくさんの人でとてもびっくりしました。とてもいそがしくて大変でしたが、たくさん練習したので当日もがんばって接客しました。たくさん注文がくるので、せんぱいたちもコーヒーをいれたり、ジュースをついだりする作業が大変そうでした。

でも、たくさんのお客さんにコーヒーやジュースを飲んでもらえてうれしかったです。

せんぱいや同じ班のなかまで協力できてよかったです。

『楽しいふとくまつり』 高等部3年男子

僕は喫茶コーナーでコーヒー担当でした。ひきたてコーヒー担当ではペーパーフィルターにコーヒーの粉を入れて、お湯を計量カップに200ccはかってから入れました。それと機械にカートリッジにセットをしてコーヒーを入れました。コールドドリンクは紙コップにペットボトルのジュースを注いで出しました。お客さんがたくさん来て緊張しました。

喫茶コーナーの休憩時間に、先輩が就職した事業所のコーナーでお買い物をしました。先輩のお店で焼きそばやたこ焼きをかいました。先輩にあえてうれしかったです。

校長先生のわたあめコーナーで七色のわたあめを買いました。甘くておいしかったです。別の学校のデイサービスのお友達もきてくれました。みんな来てくれてうれしかったです。

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成30年2月16日(金)
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校

<全体について>

- ・当日は天候にも恵まれ、287名もの来場者があり大変盛大でした。ポスターやチラシには昨年同様にQRコードを掲載し、支援機関や公共施設、仙台圏の小・中学校に配布したほか、地下鉄駅3か所への掲示、大学のFacebookや地元新聞への掲載、今年初の試みとして地元テレビ番組のイベントPRコーナーでの宣伝などが功を奏したと思います。
- ・今年は本校の創立50周年としてのおまつりでもあり、PTA本部企画として、臨床美術プログラムにより保護者が制作した「太陽のバッグ」の展示・販売を行いました。コーナーを会場入り口に設けたので、その場が華やかだけではなく、来場者にも興味をもっていただき制作品も完売しました。
- ・去年に引き続いた本校の校長企画のポップコーン・綿あめ販売も好評でした。3色の綿あめや10種類以上の味から選べるポップコーンがとても人気で大盛況でしたが、整理券を配布したので他のコーナーで遊びながら待つことができ、混乱なく商品を提供できました。
- ・宮教教育大学の学生や附属中学校の生徒もボランティアとして各コーナーに携わって下さり、子どもたちとの親睦を図ることができました。
- ・今年初めて、まつり担当のPTAが50周年ロゴマーク入りのTシャツを揃え、一体感を図ると同時に来場者へも係員がわかりやすいようにしました。
- ・中学部、高等部の子どもたちがそれぞれ自分たちで製作した商品を販売しました。大きな声で呼び込みをしながらうれしそうに販売や接客をする姿が、とても頼もしく感じました。製品はお客様にも好評で、ほぼ完売となりました。

<作業所について>

- ・9か所の障害者作業所に出店していただきました。販売に来てくれた卒業生の働く姿を間近に見ることができ、在校生も保護者も大いに励みとなりました。
- ・体育館の外に2事業所よりアイス、カレーライスの移動車販売をしていただきました。外にも休憩コーナーを設けたので、とても和やかな交流の場となりました。
- ・各作業所が多岐にわたり、それぞれが地域でも人気の商品を出店していただいたので、商品の説明を受けながら楽しく購入している様子が見られました。

<提供品・お気持ち手作りコーナーについて>

- ・提供品が多数集まったので、品薄になることもなく後半の来場者にも楽しんでいただけて良かったです。
- ・お父さんのクワガタ(昆虫)コーナーや、在校生、先輩保護者の手作り品もあり、お客さまが途切れることもなく子どもから大人まで沢山の商品を買っていただきました。

<喫茶コーナーについて>

- ・今年は喫茶コーナーやペットボトルの販売を、全面的に高等部にお任せしました。注文から会計までこなし、日頃の学習の成果が十分発揮される機会となりました。
- ・子どもたちがみんな頑張って接客にあたっており、コーヒーが売り切れになるほど大盛況でした。

<子どもコーナーについて>

- ・ゲームや会場の飾りつけ、スタンプラリーカード、入場ゲートなどを手作りし、子どもだけではなく大人も遊びたくなる楽しい雰囲気に仕上がりました。
- ・大学生、附属中学生のボランティアさんが子どもたちとかかわってくださり、余裕をもってお客様に対応ができました。
- ・外部からのお子さんや卒業生にも多数来場していただき、ゲームなどを楽しんでいただきました。

<太陽のバッグコーナーについて>

- ・創立50周年を記念し、PTA本部が主催した『太陽のバッグ』では、まつり担当以外から、有志の保護者が制作に協力してくれました。まつりの中で新しい取り組みとして皆で同じ志をもって時を過ごせたことは、私たちの素晴らしい財産となりました。
- ・お客様には、制作したバッグに込められた『一人一人は何にも変えられない素晴らしい存在。多様性を皆で認め合うことの大切さ』を届けることができたと思っています。大盛況での完売となり感謝の気持ちでいっぱいです。